

第5回 庄戸トンネル施工技術検討会

議事要旨

日 時：令和2年1月9日（木）10：00～12：00

場 所：ビジョンセンター東京駅前

出席者：真下英人委員長、今田徹委員、西垣誠委員、砂金伸治委員、日下敦委員、
中野清人委員、大津敏郎委員、山田隆昭委員

議 題：

- ・ 施工中の観測状況
- ・ 全体施工計画の検討

議事要旨： 資料の内容について説明を行い、下記の報告・意見等があった。

《 施工中の観測状況について 》

- ・ 地表面には大きな変位は見られていない。今後も測定を継続し注視していく。

《 全体施工計画の検討について 》

- ・ 適切な計測管理により変状の予兆を早期に把握するとともに、変状への対応方法及び体制について予め検討しておくことが重要である。

【分合流区間】

- ・ 上半盤の施工は、大断面での掘削が可能な機械の導入により掘削範囲をスプリングラインまで下げることで、坑内変位の低減が期待できる掘削断面形状を採用するとともに、下半掘削時の騒音・振動を低減できる仮インバートストラット（鋼材）を省略した施工方法を採用する。
- ・ 中央導坑の断面形状は、上半盤とのバランスや切羽の安定性に配慮した検討案の断面を採用する。
- ・ トンネル断面形状は、トンネル安定性の向上がより期待できる、円形断面に近づけたインバート形状を適用可能な箇所において採用する。

【低土被り区間】

- ・ 頂部導坑断面を円形とすることで土圧バランスを向上させるとともに、補助工法の範囲を広げることで周辺地盤への影響をより低減できる仮設方法を採用する。
- ・ 側壁側の頂部導坑を仮インバートにより早期閉合することで周辺地盤への影響を低減する仮設方法を採用する。
- ・ 土被りが特に小さい市道交差部等の施工は、地下埋設物への接触リスクを低減した施工方法を採用する。
- ・ 函体構造は、頂版部のハンチ形状の変更により頂版厚さを低減し、土被り厚を確保することで導坑掘削時の周辺地盤への影響を低減する構造を採用する。
- ・ 施工機械は、騒音・振動の低減がより期待できる機械等を採用する。
- ・ 土被りが小さい箇所においては、地表面の排水処理等の対応について考慮する必要がある。

以 上